

名称を PE Conference (PECON) に変えて 2 年目となった NSPE の年次総会が、2017 年 6 月 19 日 (水) から 22 日 (土) の 4 日間、米国ジョージア州アトランタ市内のホテル (Atlanta Marriott Marquis) にて行われた。今年は初参加の森山理事と殿岡 (学生) 会員に加えて、西久保理事は 3 回目の年次総会参加となり、すでにベテランの域に達しているようである。

### 1. NSPE Year in Review 2016-17

ベアヘーレン会長が務めた一年間の NSPE の動向をまとめた冊子が Opening General Session で配られ、さらに動画で紹介された。動画の中では JSPE 総会への参加についても触れられており、感謝の意が述べられていた。

(<https://www.nspe.org/sites/default/files/resources/pdfs/2017Year-in-Review.pdf>)

この NSPE Year in Review 2016-17 では以下の 4 つの方針について、各種活動が紹介されている。

- ・ NSPE Champions the PE License (PE 資格の支持)  
様々な PE 資格を保護するための活動を行った。
  - PE 試験を受験するための教育要件を強化する立法推進を行った (ウィスコンシン州 PE 協会と共同)
  - FE 試験免除に反対 (ワイオミング州 PE 協会と共同)また、エネルギー省に対して、電力グリッドの開発と評価のすべての段階において PE を関与させるべきであるなど、社会への提言活動も積極的に行った。
- ・ NSPE Stands as the Ethical Guide to the Profession (倫理指針としての役割)  
倫理審査会では 12 の新しい倫理事例を発表し、発表された事例の総数は 600 を超えた。
- ・ NSPE Powers Professional Advancement (PE 能力の向上を強化)  
PE の能力向上のために Online Learning や 15 Free Webinars といったツールを提供した。
- ・ NSPE Unites the PE Community (PE コミュニティの強い結びつき)  
3,700 人以上の参加者となっているオンラインコミュニティや Professional Engineers Day の実施など。



NSPEにおけるPE資格を保護する取り組みについては日本にいるとなかなか実感できないNSPEと社会との折衝を感じることができ、社会への提言などJSPEの活動としても参考になるような取り組みが非常にたくさんあると感じた。

## 2. セミナー

General Sessionを含めて27のセミナーが実施された。水や電気などのインフラストラクチャーを中心に聴講し、全体的な印象としては日本でも良く耳にするIndustry4.0のようなITによる産業革命で産業構造が変化しつつある中でどのように対応していくべきかといった議論が多かった。

- Cyber Security for Critical Infrastructures: Challenges and Solutions

水や電気などのインフラストラクチャーにおけるシステムの課題や対応策についてわかりやすく解説された。

2007年に行われたサイバー攻撃がどのように電力グリッドの物理的コンポーネントを破壊する可能性があるかを実証したAurora Generator Testや2015年にウクライナの配電会社におけるコンピューターやSDACA (Supervisory Control And Data Acquisition) システムに対して第三者の不正侵入により変電所が停止した事故(事件?)など事例を交えて紹介された。

このような状況は前述のエネルギー省に対するNSPEとしての提言ともつながる重要な事項である。



Dr. Mauricio Papa による Cyber Security に関する講演

CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

その他、

- Incorporating the benefits of reusable wastewater in policy making  
テネシー州における再利用水の飲料利用の推進に関して
- Water supply for the future  
アトランタ近郊ガイネット郡における再利用水の飲料利用とテキサス州ヘンフィ爾郡における水処理プラント・ポンプステーションの開発について

### 3. HOD (House of Delegates)

今回も JSPE に 3 分間スピーチの機会が与えられ、森山からベアハーレン会長へのお礼や JSPE の組織概要と活動方針の紹介、さらに今後も NSPE との結びつきを強めていきたいとの意向を説明した。以下にスピーチの全文を示す。

Hello everyone.

Thank you Tom-san, Kodi-san, and Georgia society for giving me this opportunity. And congratulations for holding PE Conference in Atlanta which is the stage of the "Gone with the wind".

JSPE is a non-profit and non-governmental organization of approximately 350 Japanese engineers who are licensed or are seeking to be licensed in US. Since the US PE exam was made open to Japanese engineers back in 1996 at Yokosuka base, estimated around thousand engineers have been registered.

JSPE is tied to NSPE with the affiliation agreement signed in August 2001. On the beginning of last month, we were honored to have Ms. Kodi in our 17<sup>th</sup> annual meeting in Tokyo. During her stay in Tokyo, we also invited her to a joint meeting with JABEE, a Japanese counterpart of ABET, and we had fruitful discussions. Thank you Ms. Kodi for sharing your time in very busy month.

Last year, JSPE president Mr. Kawamura told at Dallas that PE licensure system well balances 4Es, those are the exam, education, experience, and ethics. JSPE's activity also focuses on correcting latest information of exam, continuous education, mentoring of young engineers, and promoting ethics.

We have announced JSPE's action policy in 2017 as "Cross and Bridge Technical Discipline". Thus, we, JSPE want to support Japanese PE holder cross and bridge not only technical but also country-to-country relations.

We have learned much from NSPE and NCEES in the past. We hope to give back our knowledge and experience to you, and thus strengthen the partnership with you.

Thank you.



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

#### 4. 感想

私にとって初めての PECON 参加であったが、NSPE および各州協会の人々の健康、安全、福祉に奉仕する活動を直に感じる非常に良い機会であった。

また、初めての参加にも関わらず、運営者、参加者などすべての方々から温かく迎え入れていただいた。これは偏に JSPE の活動の一つである NSPE 総会への参加や NSPE 会長の受け入れなどを継続的に行ってきた重要な成果でもあり、歴代の参加メンバーおよび来日いただいた NSPE 会長に感謝したいと思った。

さらに、現在 NSPE の総会が PECON という名称・形式に変わったこともあるため、発表形式で JSPE からの情報をインプットしていくことも可能ではないかと思われる。JSPE の存在感を高め、NSPE にこれまで学んだ経験を使って恩返しする意味でも、JSPE の活動や日本のエンジニアリングに関する状況などを PECON にインプットできると良いと感じた。

